

2010年2月26日

杉並区区長 山田 宏 殿

NPO 法人「共に生きる国際交流と福祉の家」

東京都杉並区阿佐谷北 5-27-11

代表 八木ヶ谷 妙子

申し入れ

本年2月2日、日比谷公会堂で開かれた「がんばれ日本！全国行動委員会」(代表田母神俊雄)結成大会のなかで、山田宏杉並区長が区長という立場を明らかにして、以下の発言をしました。

「杉並区は、最初に扶桑社の教科書を採択した。もともと“左巻き”の人たちが多い所で、大変な反対を受けました。(中略)自分は過去の人たちと違うんだと、無責任、他人事、無関心を決め込んでいる日本人がいる限り、日本は再生しないのです。そういう思いで扶桑社の教科書が採択されましたが、その時、最もひどい反対をしたのが在日の韓国人の団体でありました。傍聴席に異常な数の人達が動員されまして、大きな声で私が答弁いたしますと答弁が聞き取れないぐらいの野次が飛びました。区長室の前にそういう方々が陣取ってシュプレヒコールをして、私はそのことに対して外国の人が、外国の教科書に対し、外国の子弟の教科書に対して、そこまで口を挟むのは意思決定違反である。だから区長室への入室は今後お断りすると、こうしたわけです。もし外国人の参政権が認められるようなことがあれば、こういう人達が大手を振って地方議会や地方の首長に圧力をかけることになるでしょう。私たちの国民の子供たちの教育は国民が決めるものなのです」(発言より抜粋)

この中で、「在日韓国人」をとりあげ、在日・滞日外国人にたいする民族差別と分断を持ち込んだ悪質極まりないものです。今日、各地で在日朝鮮・韓国人を攻撃している「在日特権を許さない会」(在特会)の動きと連動していると思わざるを得ません。

私たちは以下の理由で、山田区長の発言に抗議し、謝罪と撤回を求めるものです。

区長として、紹介され、区長として発言しました。その内容は、区長の立場を政治的に利用した悪質な発言です。

「最初に扶桑社の教科書を採択した」と誇らしげに語っていますが、教科書採択は教育委員会の教育委員の強権的選出、調査書改ざんと捏造、著者の傍聴など違法の数々を駆使し、多くの人たちの反対を押し切って採択したことは事実です。一切は山田区長の許可なくしてはできないもので、行政ぐるみの違法行為だったのです。

そもそも戦争賛美、歴史を改ざんする教科書として、杉並の教職員・保護者・区民だけではなく、日本全国、アジア、ヨーロッパなどからも反対・批判の声があがったのは、周知の事実です。にもかかわらず、それらのことには口をつぐみ、「そのとき、

最もひどい反対をしたのは在日韓国人の団体」と描きあげ、在日朝鮮・韓国人を敵視し、民族差別を行ったのです。区長の責任は重く、絶対に許されることではありません。

代表田母神俊雄氏とは、昨年の教科書採択を前後して、杉並区内で度々開かれた集会において、二人は中心的人物であり、互いに「核武装」「戦争扇動」を支持し、煽っている間柄です。2月2日の代表挨拶で、田母神氏は「国を誰が守るのか」と核武装を主張して、「いうこと聞かないと(国を)ぶん殴る」と言い放っています。つまり、核武装で戦争を仕掛けるということです。そこで山田区長は「(在日韓国人の)当日(採択日)の異常な数の動員」「区長室入室お断り」発言をしたのです。2005年8月、採択当日「嫌韓流」というポスターを持った人々を区役所敷地内に入れ、反対の人々を排除したのは区長自身です。「朝鮮人貸間お断り」「外国人入浴お断り」を煽っているのと同じです。戦争賛美だけでなく、在日朝鮮・韓国人を敵視し、排除し、民族差別をしているのです。

今年は、朝鮮植民地支配から、ちょうど百年目の節目の年にあたります。過去を反省し謝罪し清算して、新しい未来に向かって進まなければならないときに、山田区長の差別発言は時代を逆行させるものです。絶対に許されるものではありません。

わたしたち NPO 法人「共に生きる国際交流と福祉の家」は国際交流と福祉を求め、地域で、国をこえて、活動をしています。とりわけ、歴史をともにできる未来を作るため、隣の国の人々と真に交流していきたいと考えています。

私たちは、過去の歴史から学ばなければなりません。かつて1923年関東大震災での朝鮮人大虐殺を再び繰り返してはなりません。現在も続く民族差別・偏見・分断・同化・排除の思想がさらに強まっています。大不況のなか、今日、労働力として利用しながらも、「難民」を認めようとする国や社会のあり方を問い、この現実を変えていかなければなりません。とりわけ関東大震災時、戒厳令下での官の主導によって流された「デマ」が朝鮮人大虐殺の引き金になったことを考えると、私たちは、区長発言を絶対に座視できないし、決して許すことはできません。声を大にして、区長発言の謝罪と撤回を求めます。